

【新収蔵資料紹介】

東京都公文書館所蔵 東龍太郎関係資料の概要

東京都公文書館 史料編さん担当

太田 亮吾

はじめに

本稿では、東京都公文書館の新収蔵資料である「東龍太郎関係資料」について取り上げる。

東龍太郎¹（画像1）は、昭和34年（1959）から42年（1967）にわたり東京都知事を務め、その在任中に、昭和39年（1964）開催の第18回オリンピック競技大会を迎えている。また、これに先立つ昭和25年（1950）には国際オリンピック委員会（International Olympic Committee / IOC）の委員に選出され、長らく日本スポーツ界を支えた。

当館が今回新たに収蔵した上記資料群は、平成29年（2017）から令和6年（2024）にかけて、ご令孫の東乙比古氏よりご寄贈いただいた都政及びオリンピック関連の東龍太郎旧蔵資料で構成されている。これらの受入れは計3回に分けて行われ、すでに1回目の受入資料2点の整理が終わり、本稿執筆現在（令和6年1月）、残る資料について公開に向けた作業を進めているところである。

以上の資料群について、本稿では、写真資料を中心にその内容を紹介するとともに、受入れの経緯や資料群の特徴など、当館で提供する現行の目録（「情報検索システム」）では確認し難い関連情報もあわせてまとめてみたい。

1 資料受入れの経緯

当館では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会²の開催決定を受け、都政に関するテーマ別資料集である当館刊行物「都史資料集成Ⅱ」シリーズにおいて第18回オリンピック競技大会を取り上げる巻を早期に刊行すべく、平成26年から編さん業務を本格的に開始した。その収録資料を検討するにあたり館内外の資料探索を進めたなかで、当時の都知事すなわち東龍太郎の日記が現存することを知り、27年8月に日記の所在地で内容調査を行った³。その成果は、30年3月に刊行した上記資料集第7巻「オリンピックと東京」において、日記の一部翻刻とともに収録している。



画像1 東龍太郎肖像写真
（請求番号：東-034）

本資料群の寄贈は、以上の活動を機に実現したものである。日記は、調査実施時、本資料寄贈者のご尊父であり、東龍太郎の長男にあたる東克彦氏が北海道札幌市に設けられた「東龍記念室」（画像2）において、写真や文書類、記念品など多くの資料とともに保管されていた。寄贈者は、それらの資料について、各資料の時期や内容に応じ東龍太郎とゆかりのある組織等でそれぞれ保存及び活用されることが望ましいとの考えをお持ちであり、上記の調査活動を通じ資料保存機関として認めていただけた当館では、そのご意向を受け、知事公務及びこれと深い結びつきを有するオリンピック関連の保管資料を寄贈いただくこととなった。



画像2
寄贈資料が保管されていた「東龍記念室」

2 資料群の構成

寄贈資料は、写真帳（写真アルバム）及び単体の写真39点、文書類5点、書簡6点、記名簿2点、スクラップブック1点、書籍をはじめとした印刷物4点、音楽レコード1点、徽章及び記念品等7点、合計65点で構成されている。その多くは、東京都知事の公務の過程で取得もしくは作成されたもの、並びにオリンピックなどスポーツ分野の職務に関連したものである。

これらのうち、量的に最多となるのが写真帳である（画像3）。保管されていた写真帳は、収録内容を写真帳の背などに記しているものがあり、当初より系統的に管理されていたとみられる（画像4）。また、寄贈を受けたもの以外にも家族写真や私的な交友関係のアルバムが数多くみられ、それらはまとまったかたちで形態別ないし年代順に整えられていた。

そのため、寄贈資料の収蔵にあたっては、資料が現地で保管されていた状態もしくは寄贈者によって整理されたものであればその並びを尊重し、原秩序に従い排列することとした。なお、以上の寄贈の受入れは、前述の通り複数回に分割して行ったが、これらをすべて一つの資料群であるとみなし、当館が提供する目録上では「東龍太郎関係資料」のシリーズ名で一括して管理している。



画像3 東龍太郎関係資料に含まれている写真帳



画像4 内容が背に記されている写真帳（一部抽出）

3 資料群としての特徴

寄贈資料はいずれも状態がよく、重大な劣化はなかった。長年にわたり良好な保存環境の下で大切に保管されてきたことがうかがえる。写真帳についても、印画紙同士の癒着などは生じておらず、すべての写真を見ることが可能である。

これらの写真帳には、東龍太郎自らが撮影したものも少なからず含まれている。それらの写真から、出張や旅行に赴く際はカメラを携え、現地の風景などをフィルムに収めていたことがわかる（画像5）。加えて、写真帳の大部分は本人がまとめたものとみられ、多くの写真には手書きで説明が添えられている（画像6）。そのため、これらの写真帳は総じて、東龍太郎の諸活動を写し撮った記録の集成であると同時に、本人の意思が反映された東自身の手による記録物として捉えることができる。

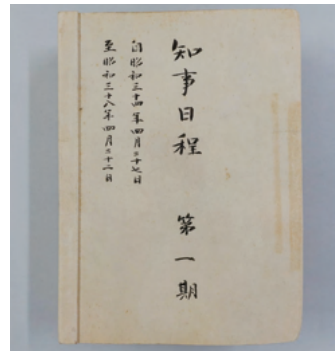


画像5 旅先でカメラを構える東龍太郎
(請求番号：東-059)

本稿では、その写真帳を対象を絞り内容及び特徴を確認するが、あわせて注目すべき寄贈資料として、知事の動静を記録した文書をここで取り上げておきたい。表紙に「知事日程」と記された本資料では、知事在職8年間の公務内容が日付ごとに時分単位で記されており、任期別に2分冊でまとめられている（画像7／請求番号：東-001、東-002）。知事秘書もしくはこれに類する関係者がスケジュール管理のため作成したものと推測されるが、知事の動向がここまで詳細にたどれる記録は現在当館所蔵文書には含まれておらず、極めてユニークな資料であるといえる（画像8）。



画像6 写真に添えられた直筆の説明文
(請求番号：東-036)



画像7 「知事日程」第1分冊
の表紙（任期第1期の公務を記録）

日	時	名	場	用	備	考
8/1	10:00	到・持論	宮城前			
8/1	11:00	知事	都庁庁舎			
8/1	12:00	交通対策協議会 研究会	都庁庁舎			
8/1	13:00					
8/1	14:00	東京都中小企業会議 第2期	都庁庁舎			

画像8 「知事日程」の記載例
(昭和35年8月1日の動静)

4 事例でみる写真帳の特徴

ここからは、東龍太郎関係資料の大部分を占める写真帳に範囲を絞り、どのようなものが含まれているか、紙幅の許す限り具体例を紹介する。

(1) 事例A：知事公務記録アルバム

最初に取り上げる写真帳は、昭和34年から翌35年における知事公務等の記録写真がまとめられたものである（画像9／請求番号：東-032）。

本資料では、各写真に楷書体で撮影場面や日付が添えられている。また、写真の裏面には「東京都広報室広報部」の印が押されている。前述の通り、写真帳の多くは東が手ずからまとめたものであるとみられるが、本事例に関しては知事公務の記録として都職員が作成したものである可能性が高い。



画像9 事例Aの写真帳表紙

収められている写真も、基本的に都知事としての公務を撮影したものであり、都営住宅をはじめとした各種施設の視察（画像10）、海外使節等による表敬訪問の対応、住民と直に接する公聴関連の催しなど、日々の動静がたどれる内容となっている。あわせて、都と関係の深い団体の活動へ出向く場面も記録されている。例えば、画像11は善行会が実施する皇居前広場の清掃活動⁴に参加した際の写真である。同会は当時、前任の知事である安井誠一郎が会長を務め、本写真撮影の翌年から東が会長職を引き継いでいる⁵。先に紹介した「知事日程」によると、この清掃活動は朝に行われたことが確認でき（前掲画像8）、知事の公務で多忙を極めているさまがうかがえる一枚であるといえる。



画像10 都営住宅桐ヶ丘団地の視察



画像11 善行会による皇居前広場の清掃活動

(2) 事例B：昭和35年アメリカ出張記録アルバム

次に取り上げる写真帳は、ニューヨーク市との姉妹都市提携のため、昭和35年4月から5月にかけてアメリカ合衆国へ出張した際の記録写真などをまとめたものである（画像12／請求番号：東-034）。東京都にとってニューヨーク市は最初の姉妹都市であり、提携年が日米修好通商条約の批准書交換から百年目にあたるため、その記念とも位置付けられた。

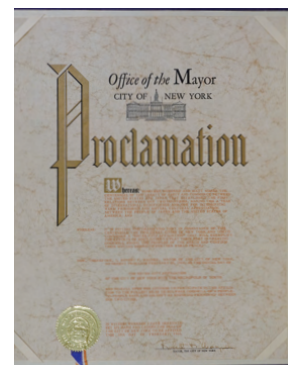
この写真帳に収められている写真は、日米両国の報道機関や航空会社が撮影したもので構成されており、ニューヨーク市長との交流（画像13）、要人との会見や現地報道機関の取材対応、国連本部の視察（画像14）など、アメリカ滞在中、多岐にわたる活動を精力的にこなしているさまがうかがえる内容となっている。



画像12 事例Bの写真帳表紙

画像13 ニューヨーク市長（右端）による
ニューヨーク市庁舎の案内

画像14 松平康東国連大使と国連本部を視察

画像15 ニューヨーク
市の宣言書

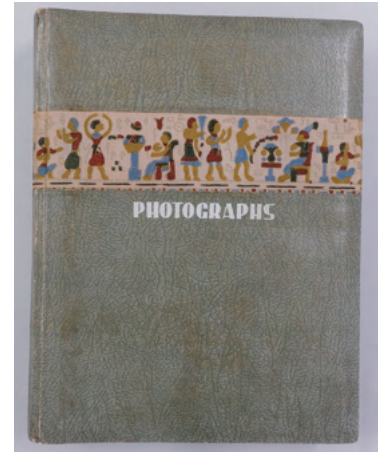
なお、ニューヨーク市との姉妹都市提携及び昭和35年の知事海外出張については、当館所蔵の東京都文書に関連する文書が残されている。画像15は、そのうちのひとつで、提携にあたりニューヨーク市が用意した宣言書である（請求番号：656.07.01）。この宣言書には、市長のサインとともに、両都市の交友を願う旨が記されている⁶。

寄贈資料には、ほかにも海外出張の記録写真をまとめた写真帳が複数ある。これらは、いずれも東京都の都市外交に関する当館所蔵文書を補完する貴重な資料であるといえる。

（3）事例C：昭和20年代のオリンピック関係アルバム

続いて、知事公務以外の記録がまとめられている写真帳の事例として、昭和20年代のものを紹介する（画像16／請求番号：東一031）。この写真帳には、昭和21年から26年にかけて務めた厚生省医務局長の職務及びその一環として出席した世界保健機関（WHO）総会関連、日本体育協会（画像17）やIOCをはじめとしたスポーツ分野における諸活動、昭和28年に退官した東京大学関係の写真などが収められており、昭和20年代の公的な活動を網羅した内容となっている。

これらのうちオリンピック関連の写真は、東がIOC委員に選出された昭和25年のものから存在する（画像18）。当時、日本は国際スポーツ競技に選手を派遣することが認められておらず、早急に解決すべき課題と位置付けられていた。そうしたさなか、新たにIOC委員となった東はオリンピック復帰に向けた働きかけを積み重ねてゆく⁷。日本選手のオリンピック参加は、翌26年のIOC総会で承認され、27年冬のオスロ大会から実現するが、この写真帳をめくると、以降も継続して各国の委員たちとの間におけるネットワーク形成に取り組んでいたことがわかる。画像19は、その一端を垣間見ることができる事例である。総会の場で撮影された写真に被写体本人と思しき直筆サインが記されており、顔と名前があわせて確認できるようになっている。こうした写真は、東自身が人名を補記したものも含めると複数存在し、その後の交流に活用していたであろうことが推察される。



画像16 事例Cの写真帳表紙



画像17 神田駿河台時代の体協
会長室で撮影



画像18 エドストロームIOC会長（中央右）
やブランデー（中央左）らと撮影



画像19 直筆サイン付き写真の事例
（1953年のIOC総会で撮影）



画像 20 春彦一副知事（左端）・高石真五郎 I O C 委員（中央右）と I O C 会長を訪問



画像 21 I O C 委員のバッジやメダル（裏面に東龍太郎の氏名が刻印されている）

また、都政との関係で特筆すべき点として、本写真帳には東京都が実施したオリンピック招致活動の最初期にあたる記録写真が含まれている。画像 20 はその一枚であり、昭和 27 年（1952）7 月に I O C 会長エドストローム（Johannes Sigfrid Edström）の許を、春彦一副知事らと訪ねた際に撮影したものである。

東京都による招致活動は、同年 5 月に安井誠一郎知事はその旨を正式に表明し、都議会の決議を経て開始した⁸。7 月には春副知事をローザンヌの I O C 本部へ派遣し、東京招致の意を示した招請状を提出している。上記の写真は、その後、ストックホルムにあるエドストロームの事務所を訪問したときのものであり、春副知事が帰国後都議会で行った報告によると 7 月 10 日のことであったという⁹。この模様は東龍太郎の日記にも残されている¹⁰。日記や上記写真の説明書きによると、開催中止となった昭和 15 年（1940）のヘルシンキ大会に関する記念品をエドストロームから受け取ったとある。

当館所蔵資料において招致活動最初期の記録はほとんど残っておらず少数にとどまるため、本写真帳はその欠落を補う意味でも極めて貴重である。なお、寄贈資料には I O C 委員であることを示すバッジやメダルなども含まれており（画像 21 / 請求番号：東-021～東-023）、本写真帳を含む複数冊で実際にバッジを装着した姿が確認できる。

（4）事例 D：東京オリンピック関連アルバム

次に取り上げる写真帳もオリンピック関係のものである。第 18 回オリンピック競技大会の組織委員会が作成したとみられる写真帳及びその収納用木箱が使用されており（画像 22 / 請求番号：東-049）、I O C 関連も含めた東京大会に関わる昭和 39 年の諸活動がまとめられている（画像 23）。



画像 22 事例 D の写真帳とその収納箱（箱のふた及び写真帳の扉に東京大会のマークが印刷）



画像 23 I O C 関連のレセプションとみられる記念写真

画像24は、開会式の前日に行った聖火の集火式を撮影したものである。このときの聖火リレーは、ギリシャのオリンピアからアジア地域の諸都市と沖縄を經由したのち、4コースに分かれて全国をまわった。それらの終点とされたのが当時丸の内にあった都庁であり、ここから皇居前広場へ移動して4つの聖火をまとめる式典が行われた¹¹。写真では、リレーのランナーから東らに聖火の受け渡しを行っているさまが撮影されている。

続く画像は、10月12日に上野精養軒で開催したとみられる祝宴を撮影した写真である。画像25は、オリンピック関連の都政幹部らとの記念写真である。左端に見えるのは、都庁に設けられたオリンピック準備局の関晴香局長、右端はその前任にあたる御子柴博見副知事である。東の右隣に立つ糟谷磯平議員は、都議会議員で構成するオリンピック東京大会準備協議会の実行委員会副委員長をこのとき務めていた。

画像26も、上記の祝宴で撮影されたものであり、東の脇に鈴木俊一副知事が並んでいる。そのさらに右隣には、織田幹雄や前畑秀子といった元オリンピック出場選手の姿も確認できる。これらの写真には、祝宴の名称が「オリンピックの会」であったと添えられており、大会競技にゆかりのある関係者を招いた催しであったことがうかがえる。

画像27は、大会終了後、IOC会長であったアベリー・ブランデー（Avery Brundage）が離日する際に羽田空港で撮影された写真である。本写真帳に記された説明書きによると、出国の前々日には東京会館で歓送会が行われたとあり、それらの写真とあわせてまとめられている。東とブランデーは長年にわたり交友を深めた仲として知られており、両名の親密さがうかがえる一枚ともなっている。



画像24 オリンピック東京大会聖火集火式
(昭和39年10月9日)



画像25 祝宴「オリンピックの会」で大会関係
の都政幹部らと撮影



画像26 祝宴で元オリンピック選手らと撮影



画像27 出国をひかえたブランデーと羽田空
港で歓談



画像 28 海外出張に先立ち羽田空港で鈴木俊一副知事と歓談（昭和 41 年 4 月 20 日）



画像 29 ニューヨーク市長らと吉田茂郎を訪問（昭和 38 年 6 月 16 日）

おわりに

ここまでに取り上げた写真帳は全体のごくわずかにとどまり、都政関係に限ってみても、なお貴重な写真が多く残されている。これらからは、公文書だけでは十分にうかがい知れない関係者同士の機微や交流の数々を読み取ることができる（画像 28 / 請求番号：東-051、画像 29 / 請求番号：東-041）。

本稿では、東龍太郎関係資料のうち写真帳を中心に紹介してきた。このほかにも、都政史研究の基礎資料となりうる「知事日程」をはじめとした知事の公務に関わる諸記録や、スポーツ史を語るうえでも欠かせないオリンピック関連の資料などが含まれており、全体として幅広い内容を持つ多彩な資料群となっている。

本稿執筆現在、当館の個人アーカイブにおいて東京都知事の旧蔵資料は本例のみであり、この意味でも希少性の高い資料群であるといえる。とりわけ写真帳は、知事としての公務の軌跡がたどれる歴史資料であることはもちろん、そのまま見て楽しむことのできるものでもある。これらの公開に向け目下作業を進めているところであるが、利用にあたり本稿がその一助となれば幸いである。

- 1 東龍太郎の経歴に関しては、鈴木俊一ほか編『唯従自然——東龍太郎紙碑』（東照子、昭和 60 年）収録の略年譜があるほか、『昭和 58 年 6 月 13 日 東京都 日本赤十字社 日本体育協会 合同葬儀記録』（東京都総務局、昭和 58 年）（当館では、資料名「栄典関係事務提要（地方自治功労）」（請求番号：企画 E 3）で所蔵）に詳細が記載されている。
- 2 「用語・略語に関する特記事項」『第 32 回オリンピック競技大会（2020 / 東京）東京 2020 パラリンピック競技大会 東京都報告書』（東京都オリンピック・パラリンピック準備局総務部企画調整課、令和 4 年）、6 頁
- 3 このとき行った日記等の現地調査は、佐藤佳子（史料編さん担当係長）、太田亮吾（公文書館専門員）、長谷川怜（公文書館専門員）の 3 名で実施した（カッコ内の各表記は調査当時のもの）。
- 4 『都政アルバム』No. 8（東京都広報室、昭和 36 年）、33 頁
- 5 「一般社団法人 日本善行会 | 本会概要」（<https://zenkoukai.or.jp/outline.htm>）（最終確認：令和 6 年 1 月 5 日）
- 6 東京都文書「ニューヨーク東京都市提携関係文書について」（請求番号：エ 4 1 0. 0 1. 0 2）。東京都公文書館 Facebook「姉妹友好都市のはじまり」（平成 27 年 2 月 27 日掲載）（<https://www.facebook.com/tokyo.archives/photos/a.727387070629495/928625013839032/>）（最終確認：令和 6 年 1 月 5 日）も参照
- 7 東龍太郎『独善独語』（金剛出版、昭和 53 年）、181-185 頁
- 8 東京都文書「第 17 回オリンピック大会招致事務について」（請求番号：M 0 4. 0 4. 0 7）（『都史資料集成 II』第 7 巻、東京都（東京都公文書館）、平成 30 年、52 頁）
- 9 『春さんを偲ぶ』（「春さんを偲ぶ」刊行会、昭和 41 年）、88 頁
- 10 東龍太郎日記「好日好時」昭和 27 年 7 月 10 日の記述（前掲『都史資料集成 II』第 7 巻、696 頁）
- 11 『第 18 回オリンピック競技大会東京都報告書』（東京都、昭和 40 年）、231 頁